

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	園芸文化論			履修区分	(必修)	選択		
受講対象	1年生	授業形態	(講義)	実習	演習	見学		
開講時期	1年次前期		時間数	30	単位数	1		
授業概要	園芸が歴史的に生活と深く関わってきたことを様々な観点から提示する。			到達目標	園芸ビジネスの展開に役立つ知識を広げる。			
担当教員	伊達 啓子							
実務経験と授業との関わり	イギリスのフラワースクールでフラワーデザインやヨーロッパの園芸文化について習得し、フラワー関連の雑誌では園芸文化についての連載を持つなど非常にこの分野の造詣が深いことから、幅広い知見を活かした指導ができる。							
テキスト・教材	自作プリント							
成績評価方法	授業の途中回の確認テストと前期定期試験期間中に実施する筆記試験で評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。					

授 業 計 画

回	指導項目	指導内容	備考
1	古代の園芸文化	園芸の定義、園芸の起源、古代西アジア、古代エジプト	
2	古代の園芸文化	古代ギリシャ、古代ローマ、古代ケルト	
3	中世の園芸文化	イスラム園芸とヨーロッパ中世社会	
4	中世の園芸文化	キリスト教の行事と花	
5	近世ヨーロッパの園芸文化	イタリア、オランダ、フランスの庭園と栽培	
6	近世ヨーロッパの園芸文化	イギリスの庭園と栽培	
7	近世ヨーロッパの園芸文化	20世紀の変化	
8	確認テスト／花を飾る歴史	筆記テスト（30分）、フラワーアレンジの歴史	
9	花を飾る歴史	冠婚葬祭の花の変遷、花の物語	
10	日本の園芸文化 I	古代から中世の栽培、供花、庭園	
11	日本の園芸文化 I	花と農耕儀礼、年中行事	
12	日本の園芸文化 II	江戸の園芸（生花、庭園、栽培）	
13	日本の園芸文化 II	江戸の野菜	
14	定期試験	筆記試験	定期試験期間中に行う
15	野菜と果物の歴史	野菜と果物の歴史、試験返却	
他教科との関連 フラワーデザイン基礎		欠席者に対するペナルティ 特にないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	花と緑の商品知識 I			履修区分	(必修)	選択					
受講対象	花き生産コース・グリーンコーディネートコース・フラワーコーディネートコース・造園コース 1年生		授業形態	講義	実習	演習	見学				
開講時期	1年次前・後期		時間数	60		単位数	2				
授業概要	苗物や鉢花等の栽培管理や販売に関する知識の学習。		到達目標	小売りの現場で求められる、お客様からの基礎的な質問等に答えられる知識の習得。							
担当教員	大久保 茂徳										
実務経験と授業との関わり	園芸会社での勤務経験、大型ガーデンセンターでの講習会講師の経験があり、植物に関する商品知識が豊富である。よって、小売りの現場で顧客へ説明することを想定し、実践的に指導することができる。										
テキスト・教材	鉢花ハンディ事典 春～夏編（NHK出版）、鉢花ハンディ事典 秋～早春編（NHK出版）										
成績評価方法	毎回の授業で扱う植物の品目ごとに、フォーマットにまとめたものによって評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ課題の得点が60点以上で単位認定となる。							

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	花苗・鉢花	春に出回る植物	
2	花苗・鉢花	春に出回る植物	
3	花苗・鉢花	初夏に出回る植物	
4	花苗・鉢花	初夏に出回る植物	
5	花苗・鉢花	グランドカバー、カラーリーフ	
6	花苗・鉢花	夏に出回る植物	
7	花苗・鉢花	夏に出回る植物	
8	花苗・鉢花	秋に出回る植物	
9	花苗・鉢花	球根植物	
10	花苗・鉢花	秋～冬に出回る植物	
11	花苗・鉢花	秋～冬に出回る植物	
12	花苗・鉢花	年末商品	
13	花苗・鉢花	冬に出回る植物	
14	花苗・鉢花	冬に出回る植物	
15			
他教科との関連 分類・形態学 園芸実習 I		欠席者に対するペナルティ 特にないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	分類・形態学			履修区分	(必修)	選択		
受講対象	1年生	授業形態	講義	実習	演習	見学		
開講時期	1年次前期	時間数		15	単位数	0.5		
授業概要	花きの栽培や販売の現場で使われる分類や形態などの専門用語について学習する。			到達目標	植物の分類、形態、名前についての基本的な知識を理解する。			
担当教員	長岡 求							
実務経験と授業との関わり	大手花き卸売会社に勤務するかたわら、園芸関連のテレビへの出演、講演、書籍の出版など、園芸に関する知識に非常に精通している。よって、わかりやすく、かつ専門的な視点から指導することができる。							
テキスト・教材	最新園芸・植物用語集（淡交社）							
成績評価方法	最終授業日に授業の指導内容について理解しているかを問う筆記試験を行う。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。					

授 業 計 画

回	指導項目	指導内容	備考
1	植物の分類と名前	植物の各種分類	
2	植物の分類と名前	植物の名前	
3	植物の形態	根・茎・葉・花・果実	
4	植物の形態 定期試験	根・茎・葉・花・果実 筆記試験	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 花と緑の商品知識 I 園芸実習 I		欠席者に対するペナルティ 特にないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	土壤肥料学			履修区分	(必修)	選択			
受講対象	1年生	授業形態	(講義)	(実習)	演習	見学			
開講時期	1年次前期	時間数	15		単位数	0.5			
授業概要	土壌の成り立ちから土壌の種類、性質および肥料の種類と施肥設計について学習する。		到達目標	植物の種類により、適した土壌、用土が違うことを理解させる。簡単な施肥設計計算ができるようになる。					
担当教員	高山 晃								
実務経験と授業との関わり	花き生産に従事するかたわら、土壌医として土作りの普及にも努める。よって、土壤肥料そのものに精通しているだけでなく、植物を生産する上での実用的な知識を指導することができる。								
テキスト・教材	図解でよくわかる土・肥料のきほん（誠文堂新光社）、アースチェック液								
成績評価方法	定期試験期間中に授業の指導内容について理解しているかを問う筆記試験を行う。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。					

授業計画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	土壤①	土壤の定義とその働き	
2	土壤②	土壤の種類、土壤と作物の関係	
3	土壤③	簡易土壤診断法	
4	土壤④	作物の要素欠乏、過剰症	
5	肥料①	肥料の必要性と区分	
6	肥料②	化学肥料の種類と特徴	
7	肥料③	有機質肥料の種類と特徴 作物別施肥基準、施肥設計	
8	定期試験	筆記試験	定期試験期間中に行う
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 花と緑の商品知識 I 園芸実習 I		欠席者に対するペナルティ 特にないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	病理害虫学			履修区分	(必修)	選択
受講対象	1年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	1年次前期	時間数	15		単位数	0.5
授業概要	農薬の種類や使用方法、病害虫の種類や生態、発生原因、症状、対処法、防除法を学習する。			到達目標	農薬の種類や使用方法について正しく理解するとともに、病害虫の種類、主要病害虫の生態などを理解する。	
担当教員	望田 明利					
実務経験と授業との関わり	長年、農薬・肥料製造会社にて研究開発に携わり、グリーンアドバイザーの講習会の講師も務めるなど、研究開発、使用者の両面から病理害虫に関する知識を指導することができる。					
テキスト・教材	自作プリント					
成績評価方法	定期試験期間中に授業の指導内容について理解しているかを問う筆記試験を行う。			認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。	

授 業 計 画

回	指導項目	指導内容	備考
1	農薬とは	種類や作用性、登録制度の解説など	
2	防除の基本	発生を抑える工夫、薬剤の選び方・使い方など	
3	害虫の種類	吸汁性害虫の種類と生態	
4	害虫の種類	食害性害虫の種類と生態	
5	病気の種類	病原菌の種類と被害症状	
6	被害症状から見た病害虫	症状別に考えられる病害虫の種類	
7	植物成長調節剤と除草	種類と使い方など	
8	定期試験	筆記試験	定期試験期間中に 行う
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ	備考
花と緑の商品知識 I 園芸実習 I		特にないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	植物生理学			履修区分	(必修)	選択				
受講対象	1年生	授業形態	(講義)	実習	演習	見学				
開講時期	1年次前期	時間数	15		単位数	0.5				
授業概要	植物細胞、光合成や呼吸、生活環と環境応答、有用成分と植物ホルモン、栄養など植物生理学の基礎知識を園芸作物への応用を念頭におきながら理解に努める授業内容とする。				植物生理学の基礎を理解し、農業、園芸に活かせるような基本的な知識や技術を身につける。					
担当教員	齋藤 仁									
実務経験と授業との関わり	埼玉県の農業改良普及員、農業大学校助教授及び農業革新専門員として36年の実務経験があり、実際の現場での知識をもとに実践的な指導ができる。									
テキスト・教材	絵とき植物生理学入門（オーム社）									
成績評価方法	試験期間中に授業の指導内容について理解しているかを問う筆記試験を行う。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。							

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	植物生理学とは 植物の構造 光合成と代謝1	植物の生理現象を知る、植物の構造、器官、細胞の働き 光合成のしくみ	
2	光合成と代謝2	代謝・呼吸のエネルギー利用のしくみ	
3	発生と形態形成	発生と成長	
4	環境1	植物の運動	
5	環境2	光、水、温度、重力等外部要因に対する反応	
6	生長と植物ホルモン	植物ホルモン	
7	栄養	無機物質、ストレス、無機元素の代謝	
8	定期試験	筆記試験	定期試験期間中に行う
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 園芸実習 I		欠席者に対するペナルティ 特にないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	園芸実習 I			履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	選択		
受講対象	1年生	授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input checked="" type="checkbox"/> 実習	演習	見学		
開講時期	1年次前・後期		時間数	120	単位数	4		
授業概要	園芸生産における基礎技術について体験的・継続的な実習を通して学ぶ。また、花き栽培についての興味と関心を高めるとともに、科学的思考力と問題解決能力を身につける。			到達目標	播種から開花までの基本的な栽培方法及び管理方法を習得する。			
担当教員	萩原 文雄							
実務経験と授業との関わり	鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事し、幅広い植物の栽培知識を持つため、植物の栽培知識、技術を実務にもとづき指導することができる。							
テキスト・教材	プリントテキスト							
成績評価方法	毎回の授業で提出するレポートと出席状況、授業態度を総合的に評価する。			認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	ガイダンス	施設案内、圃場の管理について	
2	土づくり	基本培養土の作成	
3	土壤改良および花壇作成	施肥の方法、花壇デザイン	
4	花き栽培	切り花栽培、植え付け方法	
5	植栽	花壇作成	
6	野菜栽培、栄養繁殖	サツマイモの栽培方法	
7	花き栽培	花壇苗栽培、鉢上げ	
8	繁殖	宿根草の栄養繁殖	
9	花き、野菜栽培管理	花壇および苗物、圃場管理	
10	植栽	夏花壇の作成	
11	花き栽培管理	花苗メンテナンス（追肥、花がら摘み等）	
12	植栽・栽培管理	夏花壇管理（除草など）	
13	花き栽培	種子繁殖、切り花栽培	
14	植栽	夏花壇管理（除草、捕植など）	
15	栽培管理	苗物栽培、切花栽培	
16	植栽	秋花壇植栽	
17	花き、野菜栽培	サツマイモの収穫、切花栽培	
18	植栽	秋花壇管理	
19	植栽、繁殖	冬花壇植栽、種子繁殖（鉢物）	
20	花き栽培	球根栽培、プランター栽培	
21	花き栽培、繁殖	球根繁殖（鱗片）、苗物栽培	
22	花き栽培管理	切花栽培、病害虫予防、農薬の使用方法	
23	花き栽培	春出荷鉢物の栽培、切花栽培	
24	繁殖	種子繁殖（好光性、嫌光性種子）	
25	繁殖	種子繁殖（宿根草）	
26	繁殖、花き栽培	栄養繁殖（挿し芽）、苗物栽培（鉢上げ）	
27	育種・繁殖	種子繁殖、交配	
28	まとめ	花壇メンテナンス、圃場管理	
29			
30			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ	備考
花と緑の商品知識Ⅰ 分類・形態学 土壤肥料学 病理害虫学 育種・繁殖		減点となる他、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	天候や植物の生育状況によって、内容の変更や指導順序の入れ替えがある。

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	育種・繁殖			履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	選択		
受講対象	1年生	授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 演習			見学		
開講時期	1年次前期		時間数	30	単位数	1		
授業概要	育種の目的や基本的な手法、メンデル遺伝を含めた育種の原理、植物の基本的な繁殖法及び植物バイオテクノロジーの知識・技術を座学・実技で学習する。（※実技は行わない可能性あり）			到達目標	育種や植物バイオテクノロジーについての基本的な知識の理解、無菌播種をはじめ基礎的な無菌操作の習得を目指す。			
担当教員	佐藤 優加							
実務経験と授業との関わり	企業での実務経験はないが、現在大学院博士課程に在籍し、植物育種の研究を行っている。よって、植物の育種・繁殖については十分な知識を持つ。							
テキスト・教材	プリントテキスト、プリント							
成績評価方法	毎授業ごとの課題プリントと定期試験期間中にを行う筆記試験で総合的に評価する。			認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	育種概論	育種の目的、手法、実例紹介	
2	育種の原理・育種応用例	原理となる遺伝学（メンデル遺伝）、育種応用 (F_1 種)	
3	種子繁殖	種子構造、種子の分類、播種法など	
4	栄養繁殖・その他の繁殖	球根、挿木、挿芽、接木、取木、株分け、特殊な繁殖	
5	植物バイオテクノロジーの基礎 無菌操作について	植物へのバイオテクノロジーの利用・無菌操作	
6	培養環境・培地について	培養条件・培地組成（演習）	
7	ウイルスフリー化 近年の植物バイオテク技術	ウイルスフリー化について、授業の総復習	
8	定期試験	筆記試験	定期試験期間中に 行う
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 園芸実習 I		欠席者に対するペナルティ 特にないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	グリーンコーディネート			履修区分	(必修)	選択		
受講対象	1年生	授業形態	(講義)	(実習)	演習	見学		
開講時期	1年次前期	時間数	30		単位数	1		
授業概要	グリーンコーディネート（園芸装飾）について基礎を学び、作品製作を実施しながら学んでいく。				到達目標	グリーンコーディネートの基礎を知り、実習を通して一連の手法を理解する。		
担当教員	佐野 好男							
実務経験と授業との関わり	長年にわたりグリーンコーディネート（園芸装飾）業に従事し、多くの優秀作品を手掛けるなど、その功績から「現代の名工」を授与。後継者育成に取り組んでいる。よって実際の現場に即した内容を指導することができる。							
テキスト・教材	関連資料の配布							
成績評価方法	最終回にグリーンコーディネートについて出題するレポートを提出。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつレポートの得点が60点以上で単位認定となる。					

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	基礎①	グリーンコーディネートとは	
2	基礎②	グリーンコーディネート実例	
3	基礎③	コンテナガーデンのデモンストレーション	
4	基礎作業①	グループ実習① コンテナガーデン基礎編	
5	基礎作業②	グループ実習② コンテナガーデンオリジナル編	
6	基礎作業③	個人実習① 木枠デザイン	
7	基礎作業④	個人実習② 木枠デザイン	
8	実践作業①	個人実習③ 木枠デザイン	
9	実践作業②	グループ実習① インドアガーデン（洋風）	
10	実践作業③	グループ実習② インドアガーデン（和風）	
11	実践作業④	グループ実習③ インドアガーデン（オリジナル）	
12	実践作業⑤	グループ実習④ インドアガーデン（オリジナル）	
13	実践作業⑥	グループ実習⑤ インドアガーデン（オリジナル）	
14	総括	レポート課題	
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	ビジネスマナー			履修区分	必修	選択			
受講対象	花き生産コース・野菜生産コース・グリーンコーディネートコース・造園コース 1年生	授業形態	講義	実習	演習	見学			
開講時期	1年次前・後期		時間数	45	単位数	1.5			
授業概要	ビジネス書「7つの習慣」をもとに、各習慣の内容、意義等を説明する。就職対策を行う。		到達目標	7つの習慣の各習慣を理解するとともに、社会人基礎力を身につける。就職活動に必要な履歴書の書き方や面接のマナーを身につける。					
担当教員	伊東 政信、吉谷 民子								
実務経験と授業との関わり									
テキスト・教材	7つの習慣Jテキスト（フランクリンコビージャパン）、自作プリント								
成績評価方法	定期試験期間中や授業内に行う筆記試験と出席状況で総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。						

授業計画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	7つの習慣 J	基礎原則 「7つの習慣」と「パラダイム」	
2	7つの習慣 J	基礎原則 自分制限パラダイム	
3	7つの習慣 J	基礎原則 自信貯金箱	
4	7つの習慣 J	第1の習慣 自分が選択する	
5	7つの習慣 J	第1の習慣 自分が選択する	
6	7つの習慣 J	第2の習慣 終わりを考えてから始める	
7	7つの習慣 J	第3の習慣 一番大切なことを優先する	
8	定期試験	前期定期試験	定期試験期間中に 行う
9	就職対策	履歴書の書き方、送付方法	
10	7つの習慣J 敬語	基礎原則 信頼貯金箱 敬語の使い方	
11	7つの習慣J ビジネス文書	第4の習慣 Win-Winを考える ビジネス文書の作成方法	
12	7つの習慣J 就職（面接）対策	第5の習慣 まず相手を理解してから次に理解される 自己分析	
13	7つの習慣J 就職（面接）対策	第6の習慣 相乗効果を發揮する 面接のマナー	
14	7つの習慣J 就職（面接）対策	第7の習慣 自分を磨く スーツの着こなし	
15	7つの習慣Jのまとめ 定期試験	まとめ 後期定期試験	授業内で行う
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考 指導順序が変更になる場合がある。

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	園芸流通			履修区分	(必修)	選択	
受講対象	1年生	授業形態	講義	実習	演習	見学	
開講時期	1年次前期	時間数	30		単位数	1	
授業概要	園芸業界の概要のほか、各分野の現状と展望を企業や団体等で実際に業務に従事している講師から学習する。	到達目標	園芸・農業・造園・フラワーといった花や緑に関わる業界の全体像を理解するとともに、業界各分野への就業意識を高める。				
担当教員	伊東 政信、他						
実務経験と授業との関わり	担当教員はそれぞれの分野での業務に従事していることから、現状に即した業界の内容、および展望等を指導することができる。						
テキスト・教材	プリント						
成績評価方法	毎回の授業後に提出するプリント、出席状況、授業態度、筆記試験等で総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。				

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	はじめに	授業を進めるにあたって 業界の全体像	
2	農業	日本の農業の現状と展望	
3	野菜生産	野菜の生産・販路開拓とこれからの可能性	
4	花き生産	生産者の現状・就農に向けて	
5	卒業生講話	夢をかなえるために	
6	見学	鴻巣花き市場の見学	
7	市場・流通	市場・仲卸～流通～の機能	
8	園芸文化	園芸文化の魅力と継承・発展	
9	造園	日本庭園の魅力	
10	フラワー	フラワー業界の現状と展望	
11	ブライダル	ブライダル業界の現状と展望	
12	種苗	種苗業界の使命と展望	
13	グリーンコーディネート	インドアグリーン・特殊空間緑化の可能性	
14	定期試験	筆記試験	定期試験期間中に 行う
15	総括	業界を目指す皆さんへ	
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 欠席した授業分のプリント提出点が減点となる。また、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	デザイン			履修区分	(必修)	選択				
受講対象	1年生	授業形態	(講義)	実習	(演習)	見学				
開講時期	1年次前期	時間数	30		単位数	1				
授業概要	物の見方、見え方を習得し、描写できるよう演習する。	到達目標	自分が頭の中に思い描いているものを表現できるようになること。							
担当教員	室伏 英男									
実務経験と授業との関わり	フリーランスで有名百貨店や多くの企業のディスプレイデザインを手がけている。そのため理論を交えた実践的な指導ができる。									
テキスト・教材	ケント紙、練り消しゴム、鉛筆（2H・H・HB・B・2B・3B・4B）、直定規、三角定規、コンパス、三角スケール、製図用ペン、色鉛筆、等									
成績評価方法	毎回の授業内で制作する課題によって評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ課題の得点が60点以上で単位認定となる。							

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	概要 デッサンの基本	物の見え方、鉛筆の削り方、下図作成	
2	デッサンの基本	黄金分割、鉛筆表現のイロハ	
3	石膏デッサン	各班に分かれ、鉛筆デッサン	
4	石膏デッサン	各班に分かれ、鉛筆デッサン	
5	植物（鉢植）の精密描写	各班に分かれ、精密描写	
6	植物（鉢植え）の精密描写	各班に分かれ、精密描写	
7	校内スケッチ	人工的な物と自然物を取り入れたスケッチ	
8	校内スケッチ	人工的な物と自然物を取り入れたスケッチ	
9	校内スケッチ	人工的な物と自然物を取り入れたスケッチ	
10	複合静物の描写	レンガ、ブロック、テーブルクロス、透明ガラスの花瓶に花、レモン、缶、紙風船	
11	複合静物の描写	レンガ、ブロック、テーブルクロス、透明ガラスの花瓶に花、レモン、缶、紙風船	
12	複合静物の描写	レンガ、ブロック、テーブルクロス、透明ガラスの花瓶に花、レモン、缶、紙風船	
13	複合静物の描写	レンガ、ブロック、テーブルクロス、透明ガラスの花瓶に花、レモン、缶、紙風船	
14	複合静物の描写	レンガ、ブロック、テーブルクロス、透明ガラスの花瓶に花、レモン、缶、紙風船	
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 欠席時の課題は必ず提出する。また、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考 進度により、指導内容が変更になる場合がある。

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	フラワーデザイン基礎			履修区分	(必修)	選択
受講対象	花き生産コース・野菜生産コース・グリーンコーディネートコース・造園コース 1年生	授業形態	講義 実習	演習	見学	
開講時期	1年次前期	時間数	30	単位数	1	
授業概要	フラワーデザインの基本を通して学ぶ。アレンジメント、花束のテクニック、ワイヤーリング手法の習得。	到達目標	基本的なテクニックを習得し、アレンジメントや花束を作れるようになる。			
担当教員	川村 志乃					
実務経験と授業との関わり	フラワースクールでの講師やブライダル装飾業務に携わってきた他、フラワー装飾の職業訓練指導員免許も取得しているため、的確なフラワーデザインの知識、技術を指導することができる。					
テキスト・教材	プリント、花材、フローラルテープ、ワイヤー、ハサミ、花器、フローラルフォーム、ラッピング用品など					
成績評価方法	毎回の授業を記録したレポートによって評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	切り花1本のラッピング	切り花の扱い方、ループリボンの練習	
2	ミニ花束	スパイラルの組み方、ラッピングの種類、リボンの復習	
3	花束（スワッグ）	ドライフラワーの活用、スパイラルの復習	
4	ドームアレンジメント	アレンジメントの基本、用途に合わせた形の選択	
5	リース	インテリアフラワー、リースの種類と作り方 テーピングの練習	
6	コサージ	身につける花、ワイヤーリング手法 テーピングの復習	
7	秋の花のアレンジ	花の特徴を活かしたアレンジメント 葉で器を作る	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ	備考
カラーコーディネート 園芸文化論		欠席した授業分のレポート提出点が減点となる。また、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	カラーコーディネート			履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	選択		
受講対象	花き生産コース・野菜生産コース・グリーンコーディネートコース・造園コース 1年生	授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	実習	<input checked="" type="checkbox"/> 演習	見学		
開講時期	1年次前期		時間数	15	単位数	0.5		
授業概要	色彩に関する基本的な知識を学習する。			到達目標	色の性質を理解する。 配色技法を習得し、実務に応用する。			
担当教員	江副 好美							
実務経験と授業との関わり	大学・各種専門学校の色彩学講師、企業研修・各種団体主催の色彩セミナーの講師を務める。カラーコンサルティング、カラーディレクション等の実務経験を活かした理論的かつ実践的な指導を行っている。共著に『配色の教科書』、『色で巡る日本と世界』がある。							
テキスト・教材	カラー＆ライフ（日本色研事業）、新配色カード199a、新配色カード199用演習台紙、カードフォルダ、自作プリント							
成績評価方法	出席状況、授業内で提出する課題で総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。					

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	なぜ色が見えるのか 色の見え方の違い	光源、物体、視覚 色温度、色覚の多様性	
2	色のしくみ	色の三属性、色相環、トーン	
3	配色のルール	配色の基本的な技法	
4	色の不思議	混色、色の心理的効果、色の知覚的効果	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ	備考
フラワーデザイン基礎 (資格取得) 色彩検定3級 (資格取得) 色彩検定2級		特にないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	造園基礎知識			履修区分	(必修)	選択
受講対象	造園コース 1年生	授業形態	(講義)	実習	(演習)	見学
開講時期	1年次前期	時間数	30		単位数	1
授業概要	造園計画・施工・管理を行う上で知つておくべき専門的な基本知識を学ぶ。 (国家検定造園技能士学科にも対応)	到達目標	造園施工・管理を行う上で知つておくべき専門的な基本知識を習得する。			
担当教員	細井 薫、布施 浩一					
実務経験と授業との関わり	(細井) 20年以上の花壇植栽・管理経験と10年以上国内外のショウガーデンへの出展および出展指導・受賞経験があるため、現場に即した実践的な指導ができる。(布施) 通年25年ほどの現場経験があり、広く造園施工・管理の知識・技術を有する。よって、造園の基本知識を様々な側面から指導することができる。					
テキスト・教材	造園施工必携 ((一社) 日本造園組合連合会)、各種関連プリント 等					
成績評価方法	普段の授業の実習状況や各種課題で総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	ガイダンス	ガイダンス、教材配布	
2	芝生概論	芝生の主な種類と性質、芝張りや主な管理について	
3	花壇概論	花壇の定義、歴史と主な種類、花壇材料、計画(考え方)	
4	石材の基本知識	石材・石灯籠・延段・蹲踞等 造園技能士学科過去問題 解説	
5	竹材および竹垣の基本知識	竹材および竹垣の基本知識 造園技能士学科過去問題 解説	
6	その他造園基本材料	木材・レンガ・セメント・塗料等 造園技能士学科過去問題 解説	
7	重機類、安全衛生	重機類の知識、安全衛生等 造園技能士学科過去問題 解説	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ	備考
園芸実習Ⅰ、土壤肥料学、病理害虫学、花と緑の商品知識Ⅰ、造園概論、造園計画、造園施工Ⅰ、造園管理Ⅰ、樹木学Ⅰ、装飾技術等		出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	造園基礎技術			履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	選択		
受講対象	造園コース 1年生	授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習	演習	見学			
開講時期	1年次前期		時間数	30	単位数	1		
授業概要	造園施工・管理を行う上で知っておくべき基本技術を学ぶ。			到達目標	造園施工・管理を行う上で知っておくべき基本技術を習得する。			
担当教員	細井 薫、布施 浩一							
実務経験と授業との関わり	(細井) 20年以上の花壇植栽・管理経験と10年以上国内外のショウガーデンへの出展および出展指導・受賞経験があるため、現場に即した実践的な指導ができる。(布施) 通年25年ほどの現場経験があり、広く造園施工・管理の知識・技術を有する。よって、造園の基本知識を様々な側面から指導することができる。							
テキスト・教材	造園施工必携 ((一社) 日本造園組合連合会)、各種関連プリント 等							
成績評価方法	普段の授業の実習状況や各種課題で総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。					

授 業 計 画

回	指導項目	指導内容	備考
1	花壇施工準備	花壇施工準備	
2	花壇施工	花壇植栽実習	
3	基本道具	造園基本道具の取り扱い	
4	刈込・剪定の基本	刈込・剪定実習	
5	樹木管理・植栽管理	樹木剪定・植栽管理	
6	造園計画基礎	製図道具の基本、計画の流れ、図面の種類、線引き練習、文花祭計画 等	
7	バラ管理	基本的なバラの管理	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ	備考
園芸実習Ⅰ、土壤肥料学、病理害虫学、花と緑の商品知識Ⅰ、造園概論、造園計画、造園施工Ⅰ、造園管理Ⅰ、樹木学Ⅰ、装飾技術 等		実習においては授業内で実習課題。 出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	造園概論			履修区分	(必修)	選択				
受講対象	造園コース 1年生	授業形態	(講義)	実習	(演習)	見学				
開講時期	1年次前期	時間数	30		単位数	1				
授業概要	造園に関わる上で知っておくべき基本知識を広く学ぶ。（国家検定造園技能士学科にも対応）	到達目標	造園に関わる上で知っておくべき基本知識を広く習得する。							
担当教員	細井 薫、布施 浩一									
実務経験と授業との関わり	(細井) 20年以上の花壇植栽・管理経験と10年以上国内外のショウガーデンへの出展および出展指導・受賞経験があるため、現場に即した実践的な指導ができる。(布施) 通年25年ほどの現場経験があり、広く造園施工・管理の知識・技術を有する。よって、造園の基本知識を様々な側面から指導することができる。									
テキスト・教材	造園施工必携 ((一社) 日本造園組合連合会)、各種関連プリント 等									
成績評価方法	普段の授業の実習状況や各種課題、確認テストで総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。							

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	造園概論①	ガイダンス、日本の主な庭園様式と歴史	
2	造園概論②	日本の主な庭園様式と歴史 復習テスト (造園技能士学科過去問題 解説)	
3	造園概論②	海外の主な庭園様式と歴史、公園概論	
4	造園概論③	海外の主な庭園様式と歴史・公園概論 復習テスト (造園技能士学科過去問題 解説)	
5	造園概論③	各種緑化(屋上緑化、壁面緑化、室内緑化等)	
6	造園概論④	各種緑化(屋上緑化、壁面緑化、室内緑化等) 復習テスト (造園技能士学科過去問題 解説)	
7	造園概論④	日本建築・茶室・茶庭(路地)の基本	
8	造園概論⑤	日本建築・茶室・茶庭(路地)の基本 復習テスト	
9	造園概論⑤	設計基礎、文花祭等	
10	造園概論⑥	設計基礎、文花祭等	
11	造園概論⑥	設計基礎、文花祭等	
12	造園概論⑦	バラ管理の基本 (概論)	
13	造園概論⑦	バラ管理 (夏剪定)	
14	造園概論⑧	設計基礎、文花祭等	
15	造園概論⑧	設計基礎、文花祭等	
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 実習においては授業内で実習課題。 出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	造園計画			履修区分	必修	選択
受講対象	造園コース 1年生	授業形態	講義 実習	演習	見学	
開講時期	1年次後期	時間数	90		単位数	3
授業概要	緑化空間を計画する上で必要な製図・設計の基本を学ぶ。その上で個人住宅庭園設計に臨む。	到達目標	緑化空間を計画する上で必要な製図・設計の基本の習得。住宅庭園設計への理解を深める。			
担当教員	山下 利隆、菅 太郎、細井 薫					
実務経験と授業との関わり	(山下) 造園会社で常務取締役を務め、1級施工管理技士の資格を持つ。長年計画・施工・管理に携わっていたため、現場に即した実践的な指導ができる。(菅) 造園会社、植物卸販売会社での勤務を経て、造園管理会社を設立。(細井) 20年以上花壇植栽・管理および製図指導の経験がある。					
テキスト・教材	造園図面の表現と描法 I (誠文堂新光社)、作庭帖 (誠文堂新光社)、緑のデザイン図鑑 (エクナレッジ)、プリント 等					
成績評価方法	普段の授業（見学）状況、見学レポートや各種製図・設計課題、専門知識の筆記試験等で総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	造園材料	宿根草や新樹種等、庭を構成する注目植物について	菅
2	設計・製図の基礎	庭とは/製図と設計/計画書・図面の種類/製図道具について/基本寸法 文花祭計画	細井
3	設計・製図の基礎	ドラフターの取り扱い／トレース／製図記号・樹木描画練習／木造住宅の基本構造 文花祭準備	細井
4	設計・製図の基礎 住宅庭園の設計・製図	平面図・透視図の描き方／庭園設計の流れ／ゾーニング／個人住宅庭園の考え方／各エリアの考え方	細井
5	見学	ガーデン・エクステリア関連施設見学	菅
6	住宅庭園の設計・製図	個人住宅庭園設計	山下、細井
7	住宅庭園の設計・製図	個人住宅庭園設計	山下、細井
8	住宅庭園の設計・製図	個人住宅庭園設計	山下、細井
9	住宅庭園の設計・製図	個人住宅庭園設計	山下、細井
10	住宅庭園の設計・製図	個人住宅庭園設計	山下、細井
11	住宅庭園の設計・製図	個人住宅庭園設計	山下、細井
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 造園施工 I 、造園管理 I 、樹木学 I		欠席者に対するペナルティ 代替見学およびレポート課題。 出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	造園施工 I			履修区分	(必修)	選択				
受講対象	造園コース 1年生	授業形態	(講義)	(実習)	演習	見学				
開講時期	1年次後期	時間数	60		単位数	2				
授業概要	造園施工を行う上で知っておくべき基本知識・技術を講義および実習を通じて学ぶ。	到達目標	造園施工をする上で知っておくべき基本知識・技術を講義および実習を通じて習得する。							
担当教員	細井 薫、布施 浩一									
実務経験と授業との関わり	(細井) 20年以上の花壇植栽・管理経験と10年以上国内外のショウガーデンへの出展および出展指導・受賞経験があるため、現場に即した実践的な指導ができる。(布施) 通年25年ほどの現場経験があり、広く造園施工・管理の知識・技術を有する。よって、造園の基本知識を様々な側面から指導することができます									
テキスト・教材	造園施工必携 ((一社) 日本造園組合連合会)、各種関連プリント 等									
成績評価方法	普段の授業の実習状況や各種課題で総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。							

授 業 計 画

回	指導項目	指導内容	備考
1	舗装工	舗装材料と舗装技術	
2	舗装工	舗装材料と舗装技術	
3	舗装工	舗装材料と舗装技術	
4	舗装工	舗装材料と舗装技術	
5	木工塗装	塗料と塗装技術	
6	定期試験 作品制作（終日）	進級作品制作（作品展）	
7	作品制作（終日）	進級作品制作（作品展）	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ	備考
造園基礎技術、造園概論、造園計画、造園管理 I、樹木学 I、装飾技術		実習においては授業内で実習課題。 出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	造園管理 I			履修区分	(必修)	選択
受講対象	造園コース 1年生	授業形態	(講義)	(実習)	演習	見学
開講時期	1年次後期	時間数	60		単位数	2
授業概要	造園管理を行う上で知っておくべき基本知識・技術を講義および実習を通じて学ぶ。	到達目標	造園管理をする上で知っておくべき基本（樹木剪定、花壇管理等）の知識・技術を講義および実習を通じて習得する。			
担当教員	由比 誠一郎、坂野 将史、細井 薫、布施 浩一					
実務経験と授業との関わり	(由比) 本校卒業後、造園会社で修業、家業の造園会社を継ぎ、20年以上雑木・自然風の庭の計画・施工・管理に携わっているため、現場に即した実践的な指導ができる。(坂野) バラ園管理に従事するかたわら育種家でもあり、園芸イベントの講師を務めるなど実際の現場に即した指導ができる。(細井) 20年以上の花壇植栽・管理経験があるため、現場に即した実践的な指導ができる。(布施) 通年25年ほどの現場経験があり、広く造園施工・管理の知識・技術を有するため、実践的な指導ができる。					
テキスト・教材	各種関連プリント、造園施工必携（（一社）日本造園組合連合会） 等					
成績評価方法	普段の授業の実習状況で評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	雑木の剪定	雑木の剪定	由比
2	雑木の剪定	雑木の剪定	由比
3	雑木の剪定	雑木の剪定	由比
4	樹木剪定	樹木管理	布施
5	季節のバラ管理	鉢バラ管理	坂野
6	季節のバラ管理 木工物メンテナンス	地植えバラの冬剪定・木材塗装	細井
7	庭園管理	季節の庭園管理	布施・細井
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ	備考
園芸実習 I 、土壤肥料学、病理害虫学、植物生理学、花と緑の商品知識 I 、造園計画、造園施工 I 、樹木学 I		実習においては授業内で実習課題。 出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	樹木学 I			履修区分	必修	選択			
受講対象	造園コース 1年生	授業形態	講義	実習	演習	見学			
開講時期	1年次前期	時間数	30		単位数	1			
授業概要	造園業に携わる上で必要と思われる基本樹木について、講義および実習農場および公園での観察を通じて学ぶ。国家検定造園技能士（3級）の樹木判断等試験対策も兼ねる。		到達目標	樹木の分類と特徴の理解。 造園技能士（3級または2級）の対策。 基本知識・技術を講義および実習を通じて習得する。					
担当教員	福島 公男								
実務経験と授業との関わり	造園会社での勤務経験があり、国営公園等の計画・管理に携わる。樹木医でもあり、樹木に関する知識や管理経験が豊富なことから、経験に基づき実質的な樹木解説が可能である。								
テキスト・教材	フィールドガイド23 葉で見分ける樹木(小学館)、造園施工必携・3級造園技能検定受検の手引き・造園施工必携・造園実技作業の手引き(1, 2級)・造園技能検定学科試験問題集((一社)日本造園組合連合会) 等								
成績評価方法	普段の授業の実習状況や模擬試験で総合的に評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。					

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	造園概論	造園・樹木の基本（概論の理解）、圃場実習	
2	葉の各論	針葉郡細論（分類ごとの習得）、圃場実習	
3	葉の各論	常広細論（分類ごとの習得）、圃場実習	
4	葉の各論	落広細論（分類ごとの習得）、圃場実習	
5	屋外実習	実地研修（知識の応用）	
6	理解度確認	模擬テスト（技能士要素試験対策）	
7	次級予習	樹木応用（知識拡充）、圃場実習	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 造園管理 I、課題学習、フィールドワーク、（資格取得）造園		欠席者に対するペナルティ 出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	装飾技術			履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	選択		
受講対象	造園コース 1年生	授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input checked="" type="checkbox"/> 実習	演習	<input checked="" type="checkbox"/> 見学		
開講時期	1年次後期		時間数	30	単位数	2		
授業概要	庭の演出や植物の様々な楽しみ方に関する各種技術や材料について学ぶ。			到達目標	庭の演出や植物の様々な楽しみ方に関する各種技術や材料についての知識を習得する。			
担当教員	星野 学、細井 薫、布施 浩一、柿沼 慎吾							
実務経験と授業との関わり	(星野) 花苗生産やガーデン施工・管理、新宿区の園芸講座等に携わっており、最新の園芸および植物（品種）の動向を個々の植物の生長を踏まえながら、寄せ植えや花の植栽について指導できる。 (細井) 20年以上の花壇植栽・管理経験と業界との交流により、造園に関する幅広い知識を有する。 (布施) 通年25年ほどの現場経験があり、広く造園施工・管理の知識・技術を有するため、現場に即した指導ができる。							
テキスト・教材	プリント、鉢・花苗、縁起鉢材料・道具一式等							
成績評価方法	普段の授業（実習・見学）状況で評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。					

授業計画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	寄せ植え（終日）	寄せ植え	星野
2	クリスマス装飾（終日）	クリスマツリーや冬の植物のイベント装飾方法	柿沼・細井
3	クリスマス装飾（終日）	クリスマツリーや冬の植物のイベント装飾方法	細井・布施
4	縁起物（終日）	松竹梅の寄せ植え	細井
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ	備考
造園計画、造園施工Ⅰ、造園管理Ⅰ、樹木学Ⅰ		出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	インターンシップ			履修区分	(必修)	選択		
受講対象	1年生	授業形態	講義	実習	演習	見学		
開講時期	1年次後期		時間数	60	単位数	2		
授業概要	外部企業において実際に現場を経験し、自身の現在の実力を理解するとともに企業担当者からも評価してもらうことで、今後の学習目標を定める。また、就職活動においても役立てる。			到達目標	自分の希望している企業（職種）での業務において、必要な知識と技術を理解するとともに、今後の学習目標を定める。			
担当教員	外部企業							
実務経験と授業との関わり								
テキスト・教材								
成績評価方法	考課表および実習報告書にもとづいて総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。					

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	企業研修	6～12日間程度外部企業で研修を行う	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	管理実習			履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	選択		
受講対象	造園コース 1年生	授業形態	講義	<input checked="" type="checkbox"/> 実習	演習	見学		
開講時期	1年次前・後期		時間数	60	単位数	2		
授業概要	造園圃場の管理を通して植物の適正な管理方法について学ぶ。			到達目標	様々な植物に対する管理方法を身に付ける。			
担当教員	細井 薫、布施 浩一							
実務経験と授業との関わり	(細井) 20年以上花壇植栽・管理経験あり。(布施) 通年25年ほどの現場経験があり、広く造園施工・管理の知識・技術を有するため、現場に即した実践的な指導ができる。							
テキスト・教材								
成績評価方法	出席状況、実習態度を総合的に評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。				

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	造園圃場等の管理実習	長期休業期間中に校内で管理実習を行う	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 欠席時数分は他の日程で代講する。出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2022年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	校内行事			履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	選択			
受講対象	造園コース 1年生	授業形態	講義	<input checked="" type="checkbox"/> 実習	演習	見学			
開講時期	1年次前・後期		時間数	120		単位数 4			
授業概要	様々な校外行事に参加し、主体性、協調性、作業の計画性など、就職してからも活かせるような知識や技術を身につける。		到達目標	様々な校内行事を通して、主体性、協調性、計画性などを身につける。					
担当教員	細井 薫、布施 浩一								
実務経験と授業との関わり									
テキスト・教材									
成績評価方法	出席状況や各行事への取り組む姿勢、レポート等を総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。						

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	新年度オリエンテーション	ガイダンス、健康診断、国家検定申込み	
2	新年度オリエンテーション	防火・防災訓練	
3	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
4	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
5	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
6	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
7	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
8	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
9	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
10	文化祭	展示／販売／体験教室等	
11	文化祭	展示／販売／体験教室等	
12	文化祭 片付け	文化祭の片付け	
13	卒業・進級作品展準備	展示等の準備	
14	卒業・進級作品展	展示等	
15	卒業・進級作品展 片付け	卒業・進級作品展の片付け	
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 欠席時数分は他の日程で代講する。出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考